

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 E-mail:shimpo-h-c@uccj.org
 発行人 竹前昇
 編集主筆 竹澤知代志
 印刷所 株式会社きかんし

教区総会報告 ②

東海、兵庫、奥羽、西中国、中部

死の陰の谷を行くときも

東海教区で起こった横領事件を報告しなければならぬ。兵庫教区総会の報告も不正流用問題に触れている。その他、教会的にはより重要、より深刻な事柄が数々起こっている。事柄には背景もあるし、軽々な論評は避けたいが、教団が「死の陰の谷を行く」ような重大な危機にあることは、誰も否定できないだろう。

真の解決に繋がる道を

東海

第81回東海教区総会は、五月三、四日、下田のホテル伊豆急を会場に、開会時正議員二〇名中一七六名が出席し開催された。議論は【議案13】「損失金処理に関する件：石原元会計が横領した六九、三〇五、一三四円を損金として処理する。」に集中した。第一読会の冒頭、北紀吉議長は、事柄と常置委員会等による対応の経緯とを説明し、「教区を揺るがすような不祥事」が起こったことを諸教会に詫言した。また、甲府中央教会から二千万円が献げられ、取り敢えず06・07年度の謝儀互助等、当座の必要がまかなわれたこと、石原元会計よりの弁済誓約書・計画書が提出されたことが報告された。議長から相次いで、質問・意見が述べられた。殆どが会計監査に当たった者、告訴を避けた四役・常議員の対応・責任を追求するものだった。会計処理や弁済計画書の内容を巡っても、長時間の質疑が行われた。予定時間が尽き採決され、一五五名中一三三名の賛成、一二名の反対で、議長報告・常置委員会報告は承認された。同様に、背任究明対処小委員会報告も承認、これらの報告は報告審査委員会に回付された。第二読会では、第三分科会での問題が扱われ、前日同様、損失金扱いとすることへの反論が多数述べられ、告発しないなら負担金拠出の意欲を失うなど、強い口調での執行部批判も述べられた。更に、担当者の責任を明確にすべきだという意見があり、来春の総会での四役の再任を否定する、常置委員は総辞職せよ、と激しい意見もあった。会計処理を巡って原案に反対の立場から修正案が出され、原案には賛成だが、弁済と責任問題について付帯案項を付けるという修正案も出た。原案を支持する意見も述べられ、元会計を選任した責任、横領を見逃した責任は、現執行部ではなくそれ以前の執行部にあるという指摘もなされた。議論は、この世の法・秩序と教会の法・秩序のどちらが優先するかという議論に流れたり、やや堂々巡りの観があった。この間、北議長は、「非常の時こそ冷静になってたど祈り、神の御心を信じて行動しなければならぬ」と述べ、また、「誰が最も傷つき苦悩したか、甲府中央教会の教員・牧師のことを思う、当人もまた苦しみ償いの意志を持っていく、真の解決に繋がる道を選びたい」と述べ、また、「告発も頭から否定しない。総会の意志ならば、それも選択肢だと考え、第一読会の際に、議案とする道筋にも触れたが、具体的な執り成しの祈りをした。他教区への転任のため今総会を終えて辞任する栗原清氏(岩本)に替わり、加藤誠氏(静岡一番町)が書選びたい」と述べ、また、七名の反対で可決された。第三読会では、一四九名中一一二名の賛成を得た。反対は二七名であった。閉会祈禱会で、山本将信副議長は、元会計のために執り成しの祈りをした。



未曾有の難問に、ただ主への信頼をもって向かう

訂正 四六〇三号一面、北海教区総会報告中、教団総会議員選挙結果の【教職】西岡裕(月寒)を、西岡裕芳(月寒)にお詫して訂正します。

記に選任された。

教団総会議員選挙結果

【教職】小出望(静岡草深)、北紀吉(愛宕町)、山本将信(篠井)、小林真(遠州)、長倉勉(三島)、大沢秀夫(松本)、宮本義弘(沼津)、西之園路子(蒲原)、伊藤瑞男(静岡)、加藤誠(静岡一番町)

【信徒】辻昭(静岡)、小林貞夫(日下部)、原田昭三(諏訪)、村田誠(甲府)、本堂しのぶ(沼津)、稲松義人(遠州栄光)、古川昭(遠州栄光)、的場武彦(下田)、須藤繁(谷村)、鈴木保美(富士見高原)

(新報編集部報) 子御影、増岡広宣(尼崎)、井原恵美子(西宮聖光)、笠水寿子(兵庫)、長谷川登子(立花)、柳谷舟子(甲府)、富士原進(姫路福音)、寺田時雄(高砂)、森章一(神戸栄光)

全員の宣言による按手式執行

兵庫

五月二日、三日、第60回「合同」後37回兵庫教区定期総会が行われた。「痛むいのちを共に生きる福音を信じて」をテーマに、開会礼拝で「震災5年目の宣教にあたっての告白」によって被災教区としてのあり方が確認された。一日目、総会議長の予備選挙で候補となった上位者三名が、所信表明で辞退を申し出た事で、選挙は長期化したが、選挙は中絶され、常置委員会が急遽開かれたが見解は一致せず、選挙は翌日に持ち越された。翌日、常置委員会から「所信表明で予備選挙結果を覆すことはできない」との見解が示され本選挙が行われた。結果、菅根信彦新議長が選ばれた。議長を正教師に限らず、補教師や信徒も対象にする事を考える「旨建議案」が出され、「正義員」に限るか、準議員も含むのか」等の質疑の後、常置委員会に付託された。副議長には真砂良克氏が選出され、書記は常置委員会付託とされた。多くの時間を割いて議された「兵庫教区クリスチャン・センタ」嘱託職員による不正流用問題と、それに伴う組織や規則の見直しに関する議題で、眞真議長の従来からの組織の不備を認め、長年その会計報告を承認してきた者全員等しく責任があるとした上で、二重、三重のチェック機能を設けてきた事等を述べ、議場はこれを承認した。それぞれ二名、計四名の教師が准正式、按手式に与った。式に先立ち常置委員



眞真人議長の司式による按手式

一月十七日を兵庫東南部でいく動きを注意深く見つめ、教育の中に子どもたちが地震被災教区として、いのちと暮らし、生存を脅かす自然災害の発生に備える件」が可決された。また、教団のセクシュアル・ハラスメント対策不備が訴えられ、独自の「基本方針と対策」、「防止委員会規則」等が改訂された。その他の主な議案は以下の通り。【同性愛者をはじめとするセクシュアル・マイノリティ差別問題に関する件】「日本基督教団と沖繩キリスト教団との「合同」とらえなおし」に関する件「教育の中心から子どもたちを排除し

菅根信彦(神戸)、竹内富久恵(神戸愛生)、小林聖(豊岡)、柴田信也(長田)、菅澤邦明(西宮)、林邦夫(兵庫松本通)、車田誠治(龍野)、森里信生(関西学院)、西内富久恵(神戸愛生)、林邦夫(兵庫松本通)【信徒】増岡広宣(尼崎)、森章一(神戸栄光)、柳谷舟子(甲府)、上田律子(御影)、笠水寿子(兵庫)、津村正敏(明石)、高寺幸子(武庫之荘)、高寺幸子(武庫之荘)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

信仰告白小委員会設置を報告

奥羽

第61回奥羽教区定期総会が、五月三日〜四日、奥羽キリスト教センターにて開催された。開会時、出席正議員は、一六名中一〇名だった。

開会礼拝の後、議事は、冒頭の諸手続きを終えて、二名の教師から提出された按手礼受領願、二名の補教師試験合格者から提出された准受領願をそれぞれ審議、承認し、直ちに式が執行された。

議長報告では、六郷伝道所廃止申請の提出を受けて常置委員で審議のうえ今総会の議案とすることが報告された。三陸南地震の被災教会復興については、05年十月、復興委員会活動を終了したが、度重なる自然災害等により募金は目標額

(二九〇〇万円)に届かなかったこと、また被災一教会に借入金返済が残っていることが報告された。教区内の教会・伝道所の教勢・財政の何れも、もはや限界ではとわられる状況として、教勢の漸減、また教区財政の節減に努めたこと、各教会負担金の算定方式改定を財務委員会にて検討、今総会の議案とすることが報告された。また、「教団信仰告白小委員会」を常置委員会の下に設置、制定五〇年になった教団信仰告白について学び、検討し、深めること」を目的として07年教区総会まで活動することが報告された。教団関係では、「教区活動連帯金は、奥羽教区に取って重要な収入財源の一つ」とし、減額

による影響を報告した。報告に対し、「小委員会」設置を昨年教区総会に諮らなかつたことへの質問、意見があった。

教団問安使として愛澤豊重総務幹事が挨拶した。他教区の総会日程が重なり三役の問安とはならなかつた。質疑には十分な応答と見えないものもあつたが、出された意見を三役に伝え



按手に臨む2名の教師

ることを約束した。また教団出版局から井関領司氏、関東教区から足田國麿君、区宣教委員長が挨拶した。審議された議案では、「教区宣教計画の件」原案に対し議員から伝道に力点を置く修正議案が出され修正動議として扱った。動議は否決されたが、伝道について文言を加筆した案が可決された。

「負担金算定方式改定に関する件」は、前回の改定から二五年を経ていること、公平性、単純性、小規模教会への配慮などが提案理由とされた。教区宣教会議等で説明があつたため、特に議論なく可決した。

「六郷伝道所廃止の件」について廃止を決議した。教区総会決議をもって一九九一年に開設され、地購入、

礼拝堂献堂にまで至つた伝道所だが、二〇〇四年から活動休止が続いていた。今後大曲教会が中心となりこの地域の伝道を担うべく、ことを決めている。なお、総会決議を経て開設され、また廃止されたことについて十分な総括を必要とするという意見が附された。

教団総会議員選挙結果
【教職】(原宗男(江刺)、岡村宣鷹、太田春夫(新井)、生金石、雲然俊美(秋田)、松村重雄(弘前)、宮島星子(木造)、白戸清(野辺地))

【信徒】鈴木務(秋田高陽)、内藤和栄(土沢)、三上敦子(田名部)、久保征紀(奥中山)、大友清子(秋南)、酒匂節雄(北上)、松尾亨(青森松原)

(渡邊義彦報)

岩国米軍基地機能強化反対決議

西中国

第55回西中国教区定期総会が、五月九日〜十日、パルメイト出雲を会場に開催された。広島・山口での開催が続く中、十数年ぶりの島根での開催となった。

開会礼拝に続き組織会。正議員一三六名中一一七名の出席で総会成立。常置委員会推薦議員承認の際、

現在の教団執行部の姿勢や教団総会議長名で配布された「二〇〇六年度教区総会への挨拶」の内容に対する強い疑義と抗議の声が議場の余地に残されたが、教団問安使はその希望を出すことも認めない」との動議が出された。原案のうち教団問安使の推薦議員承認を他の准議員承認と切り離して扱

い、まず動議について採決し少数否決。続いて原案も少数否決となった。この結果、傍聴及び口頭での挨拶の余地は残されたが、教団問安使はその希望を出すことも認めない」との動議が出された。原案のうち教団問安使の推薦議員承認を他の准議員承認と切り離して扱

「二〇〇六年度教区総会への挨拶」への抗議」を総会名で採択すべきとの建議案が出され、賛成多数で可決された。これは、教団諸区が教団総会を欠席した場合、教団総会議長の招集に

応じるべきでないことを表明する」との内容を巡って意見が分かれ少数否決となった。

また、三名の准正式と二名の按手礼、逝去信徒記念式が執行され祈りを合せた。

常置委員会提案議案として、「米軍の世界再編に伴う岩国基地の機能強化に断固反対し、各地との連帯を深めながら取り組みを推進する件」、「教区宣教基本方針、宣教基本方針の見直しに関する件」が賛成多数で可決された。建議案は、「西中国教区はセクシュアル・ハラスメントに対する取り組みを教会の宣教としてとらえ、教区としてそのような事件が起こらないように具



新任教師の紹介

「正しい聖礼典の執行」に高い関心

中部

第56回中部教区総会は五月三〜四日、名古屋中央教会を会場に、開催された。出席正議員は二〇五名中一九四名。総会の中で四名の准正式が執行された。

主な議事は常置委員会報告、教団総会議員選挙、教団問安使挨拶、常置委員会提案による議案であった。

〇〇六年度宣教実施目標(案)と「教区規則変更」に

関する件」であった。宣教実施目標案は、「教団信仰告白と教憲・教規にもとづく」宣教理解の一致と信頼関係」が強調され、賛成多数で可決された。教区規則変更に関する件は、「会計監査委員」を「監査委員」へ変更する(業務監査を含む変更)、「常置委員総数を十

「常設委員会を互助委員会および愛知老人コミュニティセンター委員会とし、『障害者と教会』委員会および部落差別問題委員会を特設委員会とする。合わせ特別委員会を規則に位置付ける」は様々な意見が交わされた後、採決に入り、六割の賛成はあつたものの規則変更に必要な三分の二に届かず否決となった。

教団問安使・山北宣久教

団議長による挨拶の中で、特に強調されたのは、教憲・教規に則つた「正しい聖礼典の執行」による信仰職制の一致の確保であった。また教団と沖繩教区との関係の改善、教団財政をめぐって等、教団の直面する諸課題について、活発な質疑応答がなされた。尚、常置委員会報告、教会記録審査委員会報告でも「正しい聖礼典の執行」について

取り上げられ、中部教区での関心の高さをうかがわせた。また、楠本史郎教区議長の開会礼拝説教も「洗礼は一つ信仰は一つ」であった。

その他、教区内各部・各委員会・各地区・関係学校の活動について、それぞれ評価と展望が報告され、相互の宣教協力と一致が確認された。特に関係学校教師の出席が多く見受けられ、教区内諸教会・伝道所とキリスト教教育機関との相互協力が密接であることが表

【教職】楠本史郎(若草)、武田真治(金城)、加藤幹夫(阿漕)、井ノ川勝(山田)、横山良樹(半田)、渡部和使(名古屋北)、小宮山剛(富山二番町)、釜土達雄(七尾、中島聡(如鸞)、菊地潤子(四日市)、小堀康彦(富山鹿島町)

【信徒】川原潤(羽咋)、本弘禮子(津、大杉弘若(阿部美男(名古屋北)、永井勝(富山鹿島町)、伊藤孝一(中京、後藤田遊子(金沢長町)、立田彰子(上野)、上村清(富山二番町)、衣川正氣(金沢南野)、西尾勝雄(愛北)

(松本のぞみ報)

体的な取り組みを行う件」、「上関原発建設計画の中止を求める件」、「米軍世界再編に伴う沖繩・辺野古への米軍新基地建設を阻止するために教区として引き続き具体的に取り組む件」が可決された。

総じて、教団執行部の姿勢に抗議の意志を明らかにすると共に、その批判を自らにも向け、教会・教区・地域で問われている事柄に、主体的に取り組んでいくことを確認した総会だった。

教団総会議員選挙結果
【教職】東島勇人(益田)、高橋敏通(下松)、柴田もゆる(廿日市)、滝澤貞(防府)、久保田二郎(広島船越)、西嶋佳弘(広島牛田)、稲垣裕一(長門)

【信徒】西澤宏(広島牛田)、浦部頼子(小郡、若尾景子(廿日市)、島敏史(宇部緑橋)、安田浩規(防府)、下手從容(周防)、新田義見(三次)

(東島勇人報)



名古屋中央教会を会場に

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

宣教師からの声

一つ思いにされつつ

加藤 実

(教団派遣宣教師)

「たいへんだったんだなあ、このとき、この人たちは！」といった感じのしみじみとした思いにさせられるところから、今なすべきことへと押し出されるのが、この一〇年の間に何度かありました。

『この事実を……』「南京大虐殺」生存者証言集を、記念館の編集した『生存者証言集』から一年かかって訳していたときもそうでしたし、七年前に南京大学出版社からそれが出る直前に渡されたもう一冊『天理難容』—アメリカ人

京「難民に仕えた宣教師証言集が昨年七月に刊行されました。最初に三つ大きな課題として与えられた「ことごとが、日本語から中国語へこちらの方が訳されたもの、そのいわば校閲でしたが、そのボリュームの膨大なことと内容の複雑なことに辟易しながら、百年ほど前に日本の領事たちが中国各地から外務大臣に送っていた情報活動の実態を知らされ、辛亥革命前のテロや白色テロの統括する背景や必然性の類が察せられましました。

仰なしに基督教を様々な角度から研究する人が、大学の先生や院生など知識層に広がっているという現象です。

その大立者が章開汎先生で、五年前にお会いしていたいた名刺の肩書き「行目、この研究所の『中国教会大学史研究中心主任』とあったことから、ここで学ばせていただくことに決めたのでした。

その教会大学史研究センターはすでに「東西方文化交流史研究中心」と発展改称し、その文獻センターに中国基督教史の学びに役立つ資料がたくさん並んでいて、自由に利用することができます。あと二ヶ月でこともお別れして帰国することになっていて、これまでのまとめにと一四四年の年表をわたしなりに試作していま

宣教師の目にした南京大虐殺(一九三七〜一九三八)をも、「宣教師の端くれとして」翻訳しなければと即断させられたのもそうでした。

その経緯を編者の章開汎先生が知られたいへん喜ばれて、ご自分の統括される華中師範大学中国近代史研究所に来てはどうかとお誘い下さったことから、ここ武漢での歴史もの翻訳のお手伝いが四年前に始まり、初め半年『天理難容』の全訳に専念させていただけた結果、『この事実を……』②—「南

来年の九月に、中国の基督教(プロテスタント)宣教師二〇〇周年となります。モリソンが最初の宣教師として広州にきたのが一八〇七年で、それから一四四年十アルファ二二〇〇年となるのです(一三〇年後にまことにたいへんな南京大虐殺が起き、宣教師たちの尊くも「たいへんな」献身的働きがされて、来年十二月で七〇〇年になります。この一四四年の間にある時この事「たいへんなこと」がひしめきあい、アルファの内容を正確につかむのは難しいとしても、その内一九六六〜一九七六年のそれこそ「たいへんな」文革の時期にまったく影を潜めていた教会が、八〇年代の初めからまさに「復活」した後、非常に勢いで伸びているのは確かです。

この二〇〇数年の動きの一つが、教会の礼拝には出ないでも聖書や基督教に興味を持つ人が多く、神やキリストへの信



加藤実宣教師、教団派遣宣教師・華中師範大学

「隠退教師を支える運動」推進委員会開催



二〇〇六年四月一九日(水)教団会議室において、第34総会期第二回「隠退教師を支える運動」推進委員会を開催した。

教団常務委員会で推薦された委員七名(通称常任推進委員)、年金局理事長小林貞夫・同業務室長青地恵・事務局黒沢咲子が出席して出席者は一〇名。

高橋豊の祈禱を以って開会した。

二〇〇五年度の事業報告および会計決算報告を受け承認した。

二〇〇五年度には八〇三の教会より金六九、五五四、四三五円、そして三六の個人団体より四一、六八〇〇円、合計六九、九七二、二三五円の献金をいただきました。その結果教団年金局に年金協助力金として四、六〇〇万円、謝恩制度の原資として二〇〇万円、すべての隠退教師とご遺族九〇二名の方々に各二万円をクリスマス祝金としてお贈りし、教団退職年金制度が出る前に隠退された教師とご遺族二名の方々に謝恩一時金として各七万円をお贈りすることが出来た等の

報告をして、感謝の内に二〇〇五年度を締めくくることが出来た。

その後この運動の目的を理解して各教会からささげられて頂く二〇〇六年度の献金目標額を六、九〇〇万円と定め、各項目の計画額を原案通りに計上して決定した。

推進活動としては、来る六月二七日(火)〜二八日(水)の二日間各教区から推薦された委員による全教区推進委員会(東京五支区を含む)を開催することを決め、更に各教区・支区・分區・地区などで、なお多くの教会にこの「隠退教師を支える運動」一〇〇円献金に参加協力をお願いする推進活動を展開することにした。

この「隠退教師を支える運動」は、教団で承認された隠退された先生方への感謝を土台に、教団教師退職年金制度を守り、クリスマス祝金を差し上げる事などを目的として二〇〇六年度も運動を推進することを申し合わせた。(多田信一報)

ひととき

松原 葉子さん

キリストと教会に仕える



富山県生まれ。オルガニスト、日本リードオルガン協会、日本オルガン研究会会員、富山鹿島町教会員

松原葉子さんはクリスチャン・ホームで育ち、幼い頃から教会に通っていた。小学校二年生の頃、体が少しずつ動かなくなってきた。治すためではなく、ただ原因を追究するために転々と病院をめぐる生活が続く、家族に励まされながらも、ショックと不安が葉子さんを襲った。その時から「イエス様、どうかして」と神と格闘するようになった。生活が始まった。その祈りを抱えつつ出席していたある主日礼拝で、葉子さんは御言が自分に迫ってくる経験をした。神の語りかけを聞き、イエス・キリストの十字架により、受容されている自分を知った。そして中学生の時、洗礼へ導かれ、「神は私に何を期待しているのか」とこの

先どのように生きていたらよいのかを真剣に祈るようになった。その後不思議な導きで、奉仕への道が開かれていった。もともと幼い頃からピアノを弾いていた葉子さんは、教会の礼拝でオルガンの演奏奉仕をするようになった。ある時、パイオルガンの演奏者が、彼女の讃美演奏を聞き感動して、音楽大学でパイオルガンの講習を受けることを奨めた。葉子さんは「神様に用いられる喜びを与えられた」と言う。

音楽大学へ入学した葉子さんは、「神様から試練が与えられたのは、このためであった」と語る。葉子さんをして語り得る証の言葉である。

たしの口は絶えることなく賛美を歌う」と詩編の聖句で言い表している。現在、葉子さんは富山鹿島町教会のオルガニストとして奉仕し、車椅子生活の中、全国各地の教会にも遣わされて行く。礼拝の奉仕に向け、御言に聞きながらの演奏準備が葉子さんの生きた聖書日課となっている。またパイオルガン、リードオルガン演奏の傍ら、オルガン曲の創作活動も行う。このように様々な仕方でも賛美の証を伝えるため遣わされつつ、葉子さんは「神様から試練が与えられたのは、このためであった」と語る。葉子さんをして語り得る証の言葉である。

祈る群れ

「先生、私のことは週報に載せなくて大丈夫」と念を押しつつ帰られる女性を見送った。金曜日、消息欄や特別献金者の出来事を祈るに面接日をつけている。相談に来られる方、最近の状況を報告される方等、この面接で多くの祈りが示される。週報は牧会上のことはできるだけ報告している。集会はもちろんであるが、教会の諸活動、そして教会員の消息である。もっとも消息については注意しつつ報告している。「私は週報で消息欄を」と、牧会の怠慢を指摘されていること、会計報告で特別献金者のお名前を見ることを大事にして「います」と高齢の教会員が言われ

た。特別献金者のお名前を見ることには、消息が分かるからでもある。週報に報告することはきつくと止められるのである。週報に報告されると困るので、何も報告されない教会員もいる。祈りの群れである教会は、一人一人の教会員を祈る群れである。「新報」は教団内のいろいろなことが報告され、祈願誌であると思っている。教団、教区のみや取り組むは、全国の皆さんの祈りの課題でもある。

「コキアリが出て寝られなかった」と面接に来られた。はて、週報に載せて報告すべきか。(教団総会書記 鈴木 伸治)

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩